

報告 第1号

長期経営計画評価委員による評価結果について

令和6年7月22日提出

提 案 者 学校法人 明秀学園
理事長 鈴木 裕一

「長期経営計画(アクションプラン M' 2025)」の評価について、評価委員の方々に令和5年度の評価を各項目別に頂きました。評価全体の結果は下記のとおりです。

1. 評価委員会実施日時 令和6年6月15日(土)10:00～

2. 評価委員会出席者

【出席委員】 志賀 弘典委員長、左子 幸治副委員長、奈須野 裕司委員、
大山 敬次委員、小菌江 五良委員、関根 由喜委員、富永 淳子委員

【欠席委員】 志賀 弘典委員長、岩間 廣道委員、
宇佐美 吉郎委員、船木 直登委員

【学校側出席者】鈴木 裕一理事長、小野 勝久最高顧問理事、埴 定之校長、
小和瀬 克夫(全日制)副校長、黒柳 誠夫法人事務局長、鈴木 建徳事務長

3. 評価結果(5段階評価)

評価年度	全日制	通信制
令和5年度(今回)	3.3	3.9
令和4年度	3.5	3.8
令和3年度	3.7	4.0
令和2年度	3.5	4.2
令和元年度	3.4	3.8

※内訳別紙

以 上

学校関係者評価総括表（2023年度通信制課程）

2023年度評価表		予測・目標	現状（括弧内％は目標達成率）	評価	前年	
経営目標	生徒数	年度末在籍生徒数	1,110名（アクションプランM'2025の目標値810名を上方修正）	1223名（110.2％）が年度末在籍生徒数。9月卒業6名・中途転学5名・中途退学8名を含めると年度内総在籍生徒数は1242名。	5.0	4.9
		日立C在籍生徒数	190名	207名（108.9％）		
		水戸C在籍生徒数	345名	371名（107.5％）		
		下館C在籍生徒数	100名	103名（103.0％）		
		宇都宮C在籍生徒数	475名	542名（114.1％）		
	アクションプラン	M'2025の検証および改善策提示	生徒数に関してはアクションプランの目標数値（810名）を上方修正の上で数値目標は達成。また、5月には急激な生徒増（2019年度比272.4％）への対応から宇都宮キャンパスを移転、教育環境の改善および宇都宮駅西口方面からの入学者獲得に努めた。同時に教育の質向上を目的としてグラデュエーションポリシーの浸透を図り、学校案内についても保護者向けを別冊とするなど改善を図った。	4.9	4.5	
	栃木県における生徒拡充	関係各位との連携強化	宇都宮駅西口近隣の中学校とのパイプ強化により2024年度の新入生も増加（157名/前年度比120.8％）、新入生の出身中学校も65校（前年度比122.6％）に増加した。また、星の杜中学校高等学校（宇都宮市）と合同で教職員研修等を実施することで、今後の連携を深めていく足掛かりとした。	4.6	4.3	
	教員対象説明会	中高教員対象説明会の拡充	宇都宮会場の申込者は32名（前年度比106.7％）と微増。水戸会場はニーズの少なさから中高訪問時での対応にシフトすることとして中止とした。	3.6	3.8	
	スクーリング施設拡充	各キャンパスの面接指導等実施施設認可	県申請により2022年度から実技を伴わない科目のスクーリングを各キャンパスで実施。そのため、生徒・保護者の負担軽減のみでなく、高萩スクーリングのバス費用削減に努めた。また、日立キャンパスの環境改善を目的として2023年度中の移転計画に着手した。	4.5	4.0	
	ホームページ	資料請求数向上（前年度比110％）	資料請求数は781件（前年度比102.4％）と目標未達。個別で見ると日立73件（前年度比79.3％）、水戸202件（前年度比108.6％）、下館75件（前年度比119.0％）、宇都宮339件（前年度比132.0％）であった。そのためマーケティングに係るチームを立ち上げて、LP（ランディングページ）の作成やリスティング広告導入によるウェブマーケティングの検討を開始した。	4.0	4.6	
見学者入学率	70％	日立キャンパス49.5％（前年度比71.0％）、水戸キャンパス73.6％（前年度比98.5％）、下館キャンパス72.2％（前年度比92.4％）、宇都宮キャンパス72.5％（前年度比100.7％）の入学率となり、日立キャンパスの2年連続前年度比割れが課題である。この点については、アンケート等でも「施設が古くて怖い」「トイレに（和式）入りたくない」等の施設面の理由が多いため、2024年度は日立駅周辺で新耐震基準を満たす建物への移転を現在進めている。	3.4	3.1		
カリキュラム	教育課程	インナーブランディングによる教育効果向上	新学習指導要領への対応のみでなく、本校独自の探究活動（インスパイアハイを用いた探究学習・探究力を高める学校行事・スマイルサポーター制度等）における目線揃えのために、外部連携によるインナーブランディング・教職員研修に取り組んだ。また、教職員のマインド・スキル向上を目的として2024年度におけるオープンバッジの導入にも着手した。	3.8	4.0	
	学校設定科目関連	本校独自のゼミ学習の拡充	2023年度はゼミ学習を担当教員のマインド・スキルに左右される部分が大きく、生徒の積極的参加も現象傾向にあった。そのため、2024年度からは目的（コンピテンシー）別にゼミを4段階に大別。各段階を4名の教員が担当し、チームとして運営することでの目線揃えとスピード感向上に努める。また、本校独自のルーブリック活用により目的を具体化することで、適宜軌道修正を図れる体制を構築していく。	3.5	2.9	
	校務分掌	教育目標達成のための有機的校務分掌再編	スクールポリシー策定により、各分掌がグラデュエーションポリシーを意識した目的の明確化に努めた。その結果、行事の参加率が大幅に向上するなど、分掌によっては大きな進捗が見られた。また、プロジェクトマネジメント部を創設してKPT(A)を用いた振り返り・アクション促進に努めたことで、全体的に抜け漏れが減っただけでなく校務のスピード感が出た。	3.9	3.7	
	ICTツール活用	Classi活用による生徒・保護者とのコミュニケーション促進	満足度調査やいじめ調査、その他各種アンケート、各キャンパスの1週間の予定等を生徒・保護者に随時配信。結果をPDCAサイクルにフィードバックすることで適宜修正を図った。また、探究学習においてもチーム（生徒・教職員）毎にメッセージグループを組んで活用することで、キャンパスを超えたコミュニケーションの幅にも広がりが見られた。	4.0	3.8	
		希望生徒へのマイクロソフトオフィスアカウント配布	希望生徒にオフィスアカウントを無償提供。自宅の個人PCでも活用可能とすることで生徒のICTスキル向上を狙ったが、フォローアップの面において課題が残った。	3.3		
		MAX-HUB活用によるオンライン会議等の推進	臨時職員会議やスマイルサポーター（生徒）の会議にてMAX-HUBを積極的に活用。とくにサポーターはキャンパス間の意思疎通に進捗が見られ、行事の企画運営面での効率化が図られた。	3.8		
		AiGROWによる360°評価の導入	AiGROWにより本校のルーブリックにおける各コンピテンシーを計測することで、今まで脆弱であったアセスメント面を強化。また、探究学習や行事等においても目的別に生徒個々のコンピテンシーを参照したグループ分けをすることで、生徒の主体性や独創的な発想に進捗が見られた。	3.8		
	特別活動	スマイルサポーター活動	サポーター研修の充実	2023年度はサポーターのために外部講師を招聘してのファシリテート研修（計3回）を実施。生徒の自己効力感が向上したのみならず、スマイルデー（新入生が学校生活に馴染むためのサポーター企画運営の行事）に向けた意見交換等でも主体的に発言しつつ周囲を活かそうとする姿勢が見られるようになった。また、研修内容についても主体的に提案する姿勢が見受けられた。	4.0	3.9
			学校行事の企画運営への参画	「自分たちの学校は自分たちで創る」という風土も定着しつつあり、単に新たな学校行事を提案するのではなく、既存の行事を新たな視点で精査するフェーズに突入した感がある。現在は創立100周年に向けて、「未来の学校を考える」プロジェクトが始動。	4.0	
		文化祭	保護者の学びの場構築	昨年度に引き続き生徒の企画運営により文化祭を実施。教職員目線では「保護者とともに学ぶ場の構築」といった目的で探究カフェを実施したことで、本校教育への理解が深まっただけでなく、教職員と保護者の距離感も更に近くなった感がある。事後アンケートでも更なる機会の充実が望まれていた。今後は「保護者同士の交流・学びの場」としての側面を更に充実させる予定。	3.9	—
HR活動		目的の明確化	心の教育、人権教育、消費者教育、がん教育、栄養教育、薬物乱用防止教育、環境教育、キャリア教育などのほか、社会課題との向き合い方やビッグファイブに基づく自己理解促進等にも取り組んだ。それぞれ、生徒への周知段階で身に付けたい知識・スキルや重要なコンピテンシーを提示したことで、生徒の取り組み意識にも変化が見受けられた。	3.9	3.7	
部活動		全国大会出場2部以上	女子バスケットボール部、男子柔道部、男子剣道部、女子卓球部、男女ソフトテニス部の6部が全国大会出場。全国大会への参加を通して部員の主体性や協働性が育まれた。また水戸・宇都宮のダンス部も各種ダンスフェス等で全日制ダンス部と積極的に共演することで自己効力感が向上したのみならず、全通の生徒間の共通理解も促進された。	4.4	4.2	
その他の活動		新規活動の推進	生徒の「普段とは異なるキャンパスで異なる教員・生徒と共に学んでみたい」という要望を受け、生徒企画のTanQ ² uestが実現。1回目は宇都宮キャンパスに、2回目は水戸キャンパスに他キャンパスの希望生徒が集まり、探究的視点の授業を終日実施した。キャンパス間の交流が深まっただけでなく、主体的に発言、グループワークをする生徒たちの姿勢に教職員も刺激を受けた。また、生徒の企画を成功させたいという想いで教職員が熱心にミーティングを繰り返したことで、教職員の一体感も醸成された。	4.0	3.9	
進路		難関大合格	国立大・難関私大への合格1名以上	茨城大（3）・埼玉大（1）のほか、明治大（3）・青山学院大（1）・立教大（3）・法政大（1）・同志社大（1）・関西学院大（1）など県経常費補助特別加算分の難関私大等に多数合格。以前は予備校など外部の指導による部分が大きかったが、2023年度はオンラインも含めた校内指導の充実にも大きな進捗が見られた。	4.5	4.6
	進路ガイダンス	キャリアガイダンスにおける外部企業等との連携促進および各種ガイダンスの充実	2023年度は500種類以上の職業に触れる機会として、滋慶学園との連携により職業体験フェスタに参加。その他、学年別に「生き方発見」、「職業と能力の関係」、「社会人基礎力チェック」等の講座のほか、ハローワークから講師を招聘しての就職支援講座や帝京大・東京福祉大・作新大・筑波学院大等を招聘しての大学出張講座を実施。	4.1	3.7	
	全日制との連携	人的・物的リソースの有効活用	外国人教員による英語でのスクーリング、年間を通しての全通ダンス部の共演等は従来通り実施。2023年度においては全日制プレミアム課外の講師による受験指導（オンライン・オフライン）にも取り組み、埼玉大学教育学部にも現役合格者を輩出。また、他校合同の教職員研修（通信制）や職員会議に全日制教員を招聘したことで共通理解は促進したものの、人的・物的リソースの有効活用という部分ではまだ課題が残されている。	3.1	2.8	
	進路決定率	70％	進路決定率は76.3％（前年度比102.7％）と前年度を若干ではあるが上回った。また、課題であった組織的な進路指導体制の確立についても、3学年担任一人で抱えるのではなくチームで対応する風気が広がった。	4.0	3.3	
	卒業率	卒業率100％	卒業率は96.2％（前年度比97.3％）と目標値には遠く及ばなかった。急激な生徒増と教職員数のアンバランス、病気療養の教員が出たことに起因する部分が大きいため、中途採用による教職員3名増で対応したが、ST比は以前高い現実がある。2月に改訂されたガイドライン（教員は生徒数を80で除した数を下回らないこと）の遵守は当然として、教育サービスの質・量向上のためにも2024年度は更なる教職員の拡充および各種研修によるマインド・スキル両面の向上に努めたい。	3.0	3.9	
その他	安全・危機管理対策	安全性の担保	2020年度より各キャンパスにAEDおよびサーマルカメラ（AI顔認証機能・ウォークスルー検温可能）を設置しているほか、2022年度からは生徒入退室および授業出席管理をiPadを用いた非接触のシステムで管理。また、各キャンパスには有事の際の備蓄品（水・非常食・防災グッズ等）を完備したほか、緊急時避難場所の周知徹底を図った。	3.5	3.6	
合計値						
総合評価				3.9	3.8	

【評価の目安】 5：充分達成できている 4：達成できている 3：概ね達成できている 2：不十分である 1：達成できていない